

# 「水稻重点技術対策」

越前しきぶ姫の品質・食味を高め、消費者へ安全で安心なお米を提供するため、「重点技術対策」を実践しましょう。

## 平成28年度目標

- ① 特別栽培 日本晴 600 ha
- ② 省農薬栽培 あきさかり 160 ha
- ③ 特別栽培 コシヒカリ 500 ha

タンパク質含有率(水分補正後)5.3%以下(食味値 85 以上)

## 1. 土づくり対策 ～収量・品質向上、地力増進を目指して～

管内の水田のけい酸値は、基準値の15.0mg/100g より著しく低い状況が慢性的に広がっています。このため、天候に左右されず水稻の収量と品質・食味の安定化を図るため、土づくり実施率50%を目標にケイカル500kg/10a、ホホワイトカリウ(粉)・しきぶホワイト(粒)100kg/10a 散布に対し、資材経費の助成と散布費用の支援を行い、土づくり実施率の向上を推進します。 ※ しきぶホワイト(粒) = 通常の資材を飛散防止用に粒状にして散布しやくすしたもの

特別栽培作付け農家が施肥している有機質肥料は窒素割合が低い商品が多だけでなく、肥効が緩慢であるため、窒素成分を補うためにケイフン堆肥を基肥として施用することが有効な対策であり、資材の散布装置(ライムソーワ、グランドソーワ)についてもJAがリース事業を行うことで、省力化を図ります。



過去に行った土壌診断や食味調査の結果に基づき作成した食味MAPや土壌MAPを活用し、地域別の地力に応じた施肥設計を行い、日本晴や省農薬あきさかりの収量、特栽コシヒカリの食味や品質の向上を目指します。

※ 土壌MAP = 土壌分析結果に基づき土性を表示したもの

おいしい登熟の良い米づくり、産米の大粒化には、稲の根の分布を拡げ、健全な発達を求めるため、丁寧な耕うん作業で、作土深15cm以上をしっかりと確保しましょう。

## 2. 契約栽培・高品質米の推進 ～インセンティブ買入制度に向けて～

越前たけふ管内を一大産地に確立できる様、寿司好適米の日本晴については600ha、平成29年度は800haを目標に生産拡大を進めます。

又、大手外食業者と提携した省農薬あきさかりについては160haを目標に作付を拡大し、平成29年には200haへ。

特別栽培コシヒカリは、適正な肥培管理を設定し、高品質、良食味による農家所得の向上を図り500haを作付目標に取り組んでまいります。



## 3. 鳥獣被害防止に向けて ～農作物被害ゼロ作戦～



JA越前たけふでは、越前市ならびに越前たけふ農業公社と連携して、イノシシ、サル等（カラス、シカ、中獣類＝ハクビシン、アライグマ等）の被害を抑えるために、被害が継続している地域での対策を強化します。

又、越前たけふ農業公社に「鳥獣害対策班」を設置し、専任者4名で巡回パトロールを実施し、鳥獣被害の相談に対応します。



## 4. 安全・安心な米づくり ～環境保全型農業直接支援対策～

インセンティブの対象となる特選越前しきぶ姫、コウトリ呼び戻す農法米など消費地や卸業者に「環境にやさしい米づくり」をアピールすることで、越前たけふ米のイメージアップを図ってまいります。



冬期湛水

□ 冬期湛水、中干し延期などによる生物多様性保全、環境にやさしい農業の推進。

□ 生産者の努力が十分に報われるよう、品質や食味の一定基準を超えるものには「インセンティブ買入制度」を行い、意欲ある生産者を支援します。

□ 各基幹支店において、申請窓口相談会、現地検査ならびに研修会を開催いたします。

## 5. 品質・食味向上対策 ～高温障害・白未熟粒防止のために～

■ コシヒカリ・あきさかりは登熟初期の高温による品質低下を防ぐため、出穂期が8月10日以降となるよう、播種期は平坦地で5月7日、山間地で4月23日以降、田植えは平坦地で5月25日、山間地で5月15日以降としましょう。

■ 日本晴も同じく、播種期は平坦地で4月20日、山間地で4月10日以降、田植えは平坦地で5月10日、山間地で5月1日以降としましょう。

■ 斑点米発生の原因となるカメムシの発生密度を減らすため、一斉草刈りデーにはカメムシ生息地の除草を行いましょう。あわせて品種別の団地的作付で防除効果の向上を！